

TAD Letter

DOKI-DOKI

06



富山県美術館

Toyama Prefectural Museum of Art and Design

START☆みんなのミュージアム 2019 ～水の、かたち～

START☆
みんなのミュージアム 2019

2019.1.19 (土)
→2.24 (日)

開催時間 9:30～18:00
(入館料 ¥500以下)
観覧料 観覧料無料
休館日 休館日

January 19 - February 24, 2019
Opening Hours
9:30am - 6:00pm
Ticket admission is ¥500 (incl.)
Admission Charge
Admission: Free of charge

富山県美術館
Toyama Prefectural Museum of Art and Design

ポスタービジュアル (Design: TSDO Inc.)

学校 (School) × 富山 (Toyama) × アート (ART) = “START”。富山県内の小・中・高・特別支援学校の協力のもと、子どもたちが主役 (STAR☆) の展覧会の第2回展が「スタート」しました。

今回は、愛知県を中心に活躍する美術家・山口百子さんを招待し、「水の、かたち」を全体のテーマに、山口さんの新作を含む作品と8学校から個性豊かな7作品が集まりました。本展では、学校と山口さんとのコラボレーション作品展示や、会期中の山口さんとのワークショップ完成作品の展示、さまざまなワークショップの開催、アニメーション上映会(2月10日(日)・2月16日(土))など、アートを体感できるしなやかなご用意しています。

子どもも大人も先生たちも、誰もが光り輝く「スター☆」になれる展覧会。富山県美術館に、みんな集まれ!

※イベントの詳細は、ウェブサイトをご覧ください。内容等は都合により変更する場合があります。

出品校：富山市立榎尾小学校／富山市立寒江小学校×山口百子／富山大学人間発達科学部附属中学校／南砺市立城端中学校／富山県立魚津高等学校＋富山県立魚津工業高等学校／星槎国際高等学校＋星槎学童保育富山／富山大学人間発達科学部附属特別支援学校



左：山口百子さん（富山市立寒江小学校での共同制作「ふるさと寒江の魅力」の様子）

右：南砺市立城端中学校の制作風景「ひろがれ みんなの波紋」

開催概要

- 会期：2019年1月19日(土)～2月24日(日) 休館日＝毎週水曜日、2月12日(火)
- 会場：富山県美術館 2階 展示室3、4
- 主催：富山県、富山県教育委員会、富山県美術館、北日本新聞社、富山テレビ放送
- 後援：富山県小学校長会、富山県中学校長会、富山県高等学校長協会、富山県特別支援学校長会、富山県私立中学高等学校協会、富山県小学校教育研究会、富山県中学校教育研究会、富山県高等学校教育研究会、富山県中学校文化連盟、富山県高等学校文化連盟、富山県特別支援学校文化連盟
- 観覧料：一般 500円(400円) / 大学生 250円(200円) 高校生以下無料 ※()内は20名以上の団体料金

わたしはどこにいる？ ^{サイン}道標をめぐるアートとデザイン



「わたしはどこにいる？ 道標をめぐるアートとデザイン」ポスター
(Design : TSDO Inc.)

開催概要

- 会期：2019年3月9日(土)～5月19日(日) 休館日＝毎週水曜日、3月22日(金)、5月7日(火) ※GW期間4月25日(木)～5月6日(火)は無休
- 会場：富山県美術館2階 展示室3、4、館内各所 ●主催：富山県美術館、富山新聞社、チューリップテレビ
- 観覧料：一般900円(700円)／大学生450円(350円)／一般前売り700円 高校生以上無料 ※()内は20名以上の団体料金、一般前売り販売は会期初日前日(3月8日)まで

関連イベント

※詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。内容等は都合により変更する場合があります。

1 葛西薫×廣村正彰×色部義昭 オープニング記念鼎談

- 日時：2019年3月9日(土) 14:00～(約90分)
- 会場：3階ホール(要事前申し込み不要)

2 佐藤修悦ワークショップ「ガムテープ文字をつくろう」

- 日時：2019年3月24日(火) 14:00～(約90分)
- 会場：3階アトリエ(要事前申し込み) ※詳細は当館ホームページ・SNSにてお知らせします

3 アーティスト・トーク ※決定期第当館ホームページ・SNSにて順次お知らせします

4 学芸員によるギャラリートーク

- 日時：2019年3月16日(土)、23日(土)、4月6日(土)、20日(土)、5月11日(土)、19日(日) 各日14:00～(約30分)
- 会場：2階展示室3、4 ※展示室3にお集まりください。(事前申し込み不要)

「サイン」とは、人を目的地に導く目印のこと。普段意識することは少なくとも、駅や空港、商業施設、美術館などのあらゆる場所に、標識や案内板、矢印やピクトグラムといったさまざまなサインが存在しています。一方で、「人生の道標(みちしるべ)」という表現があるように、場所やそこに至る道程は人間の生き方も分かちがたく結びついています。

本展では「サイン＝道標」に注目し、グラフィックデザイナーによるサインデザインと、場所との関係性を追究した現代美術作品をあわせてご紹介します。本展出品作品を通して、人間がどのように場所や空間を理解し、伝えようとしてきたのか、そしてその中でめぐらされる「わたしはどこにいる？」という問いに、「アート」と「デザイン」の双方から迫ります。

出品作家(五十音順)：秋山さやか(現代美術作家)、色部義昭(グラフィックデザイナー/アートディレクター)、葛西薫(アートディレクター)、康夏奈(現代美術作家)、佐藤修悦(警備員)、田村友一郎(現代美術作家)、廣村正彰(グラフィックデザイナー)

関連資料展示：アインタイプ関連書籍、大阪万博ピクトグラム



オットー・ノイラト『国際図像言語』1936年
武蔵野美術大学美術館・図書館蔵

わたしはどこにいる？ ^{サイン}道標をめぐるアートとデザイン

見どころと出品作家紹介

「サイン」や場所をテーマに、国内外で活躍する7名のアーティストとデザイナーによる作品と、関連資料を紹介いたします。現代美術作家3名はそれぞれ富山で取材・滞在を行い、それをもとにした新作を発表します。会期中には、美術館の外から館内各所に“出張”して

きたサインを、マップを手に探して楽しむことができます。また、本展の会場構成・サイン計画は、富山県美術館のサイン計画を手がけた色部義昭さんが担当します。館内全体でサインと出会い、体感する機会となることでしょう。

【現代美術作家】

秋山さやか

滞在先で手に入れた糸やボタンなどの素材を使って、地図をプリントした布に自分の歩いた場所を縫いつけたり、拾ったものをつなぎ合わせたりする作品を制作する秋山さん。今回、12月から2月にかけて富山に滞在し、当館のアトリエで新作の制作を行いました。カラフルな毛糸やリボンの間に、富山の記憶がつまった作品を発表します。



秋山さやか アトリエでの滞在制作風景 (2019年1月14日)

康夏奈

康さんは、山に登る、海に潜るなどの自然に分け入る体験をもとに、地底や宇宙にまで至る壮大なスケールの絵画や立体等の作品を制作しています。今回は新作制作に向けて、昨年9月、立山連峰を登って取材を行いました。その体験に基づき、立山の風景を部品とするUFOの設計図《立山飛行体》を展示します。



康夏奈 《立山飛行体シリーズ》(仮称) 作品イメージ

田村友一郎

富山市(旧大山町)出身で、国内外で活躍する田村さんは、既存のモノや資料を独自の視点でひも解く作品を制作しています。今回は当館ゆかりのヴァイオリニストの眼鏡を中心に、メガネのハラダ、立山国際ホテルなど、富山の皆さんにはおなじみの場所やモノをめぐる作品を展開します。



田村友一郎 作品イメージ(シモン・ゴールドベルク旧蔵品)

【デザイナー】

色部義昭

富山県美術館のサイン計画を手がけた色部さんは、本展覧会の展示構成・サイン計画の担当として、企画段階から計画に参加してくださいました。本展のためにデザインされた吹き出し形のキャプションにもご注目ください。本展では、色部さんのこれまでの仕事のほか、館内のサインも展示作品として紹介します。



色部義昭 富山県美術館 館内サイン 2017年
(サイン計画：色部義昭／監修：永井一正)

葛西薫

広告のアートディレクションでも知られる葛西さんの作品は、当館に収蔵されているポスター作品でご覧になった方も多いのではないのでしょうか。本展では、東京都立つばさ総合高校の壁面をさまざまな色で塗りわけて格言を配したウォールグラフィック《Wisdom on Wall》を会場に実物大で再現します。



葛西薫 東京都立つばさ総合高等学校 《Wisdom on wall》
2002年

廣村正彰

サインデザインと言えば廣村さん、と言っても過言ではないほど数多くのすぐれたサイン計画の実績と受賞歴を持つグラフィックデザイナーです。今回はこれまで廣村さんがサインデザインを手がけた場所を背景に、ピクトグラムが動き出す映像を大画面で上映します。

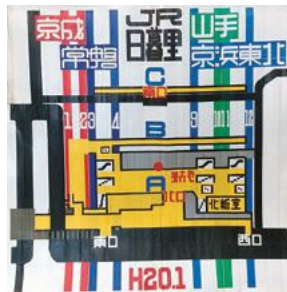


廣村正彰 横須賀美術館 2007年

【警備員】

佐藤修悦

佐藤さんは、新宿駅に勤務している警備員です。お客さんの案内のため、現場にあったガムテープを使って作成した文字や標識が話題となり、親しみをこめて「修悦体」と呼ばれています。本展では、過去作品のほか、富山オリジナルの文字や案内図も出品します。会期中のワークショップもお楽しみに。



佐藤修悦
JR日暮里駅構内案内図
2008年

○オープンラボ（土日祝）

「えのぐであそぼう！
にじんでみえた、カタチから」

- 開催日：2月10日（日）、11日（月）、17日（日）、24日（日）
- ※水色の日は午前中のみ開催
- 活動時間：10:00～12:00、14:00～16:00
- 会場：富山県美術館3階 ラボ（アトリエ内） ●参加：無料

○オープンラボ（平日）

「なぞりえ～オリジナルぬりえで描こう～」

- 会期：1月17日（木）～5月20日（月）の平日に実施
- 活動時間：10:00～16:00
- 会場：富山県美術館3階 ラボ（アトリエ内） ●参加：無料
- ※学校団体の施設利用や、その他のイベントがある場合はお休みします。
- 随時当館WEBサイトやSNSをご確認ください。

「いろいろやっ展^{てん} みる+つくる+発表する
アトリエ・ドキュメント2018」 開催報告

2018年1月17日（水）～11月15日（木）の間に実施したアトリエプログラムの成果報告展「アトリエ・ドキュメント2018」をTADギャラリーにて開催しました。2回目となる本企画では、ワークショップに参加してくださった方々の作品を中心として、講師の先生による参考作品の展示も行いました。他にも、活動内容を記したパネルの掲示と、活動の様子を画像でまとめたスライドショーなどをテレビモニターで放映しました。

会場には、参加者の作品をファイリングして閲覧できるコーナーを設けるなど、椅子を多く設置したため、来場者の方々は、ゆっくりと展示を楽しまれたようでした。冬休み中の子どもたちや、そのご家族、年末年始に帰省で来館された多くの皆様にご覧いただけました。



※「いろいろやっ展^{てん} みる+つくる+発表する アトリエ・ドキュメント2018」は、2018年12月6日（木）～2019年1月6日（日）に開催しました。

TAD 映画祭：アート映画 3 作連続上映会

TAD映画祭として、美術や建築をテーマとする、以下のアート映画3作連続上映会を開催いたします。

「顔たち、ところどころ①」：アーティストのJRと「ヌーヴェルヴァーグの祖母」とも呼ばれる女性映画監督のアニエス・ヴァルダが、フランスの田舎街を旅しながら作品を作り残していくドキュメンタリー。

「もしも建築が話せたら②」：ヴィム・ヴェンダース、ロバート・レッドフォードを含む6人の映画監督が、思い

入れのある建築物の心の声を描き出す、オムニバス。

「バンクシー・ダズ・ニューヨーク③」：今話題のバンクシーが2013年10月にニューヨークをハックして行った展示のドキュメンタリー。

●日時：2019年2月17日(日)、23日(土)
2月17日：②10:00～12:45、①14:00～15:30、③16:15～17:45
2月23日：③10:00～11:30、②13:00～15:45、①16:15～17:45
(各回15分前に開場) ●会場：富山県美術館 3階ホール
●参加費：無料(定員各回100名/先着順) *事前申し込み不要

TAD アート・レクチャー「わからないから始まる美術鑑賞」

美術プロガー「青い日記帳」主宰のTakさんこと中村剛士氏をお迎えし、美術や美術館で楽しく過ごすコツ、長続きするアートとの付き合い方などを、富山県美術館を例に挙げながら、お話しいただきます。今回は、当館のコレクション展をご覧になったことを前

提としたレクチャーになりますので、先にコレクション展をお楽しみになってからの聴講をお勧めします。

●日時：2019年2月24日(日)14:00～(約90分)
●会場：富山県美術館 3階ホール
●参加費：無料(定員100名/開場13:30～) *事前申し込み不要

※TADアート・レクチャーは不定期にさまざまなテーマで開催しています。

※詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。内容等は都合により変更する場合があります。

INFORMATION

7

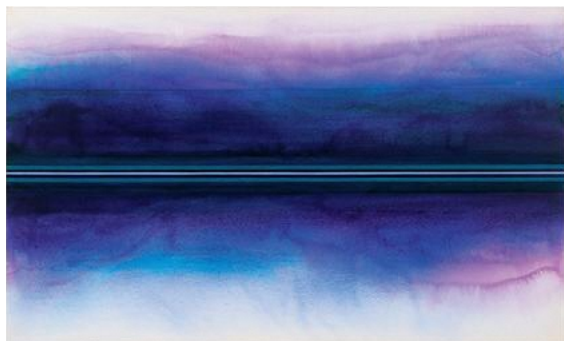
近隣美術館の展覧会スケジュール

- 【ギャリリ・ミレー】 『米田雪子 作品展』 ●会期：2019年2月11日(祝・月)まで
『都会と農村』 ●会期：2019年8月25日(日)まで
- 【高志の国文学館】 『北の命の物語展「倉本聰と点描画」』 ●会期：2019年3月4日(月)まで
『大伴家持生誕1300年記念企画展「家持発見 一響き合う詩歌と絵画」』 ●会期：2019年3月17日(日)～5月13日(月)
- 【富山県水墨美術館】 『愉(たの)しきかな!人生 老当益壮(老いてますます盛ん)の画人たち』 ●会期：2019年2月17日(日)まで
『ひらけ墨画ワールド いろいろのいる墨のいろ 一荒井恵子と子どもたち』 ●会期：2019年3月20日(水)～5月12日(日)
- 【富山市ガラス美術館】 『ジブリの大博覧会 ～ナウシカからマナーまで～』 ●会期：2019年2月24日(日)まで
『コレクション展2018-II』 ●会期：2019年6月16日(日)まで
- 【森記念秋水美術館】 『所蔵品コレクション「新春展」』 ●会期：2019年2月24日(日)まで
『森記念秋水美術館所蔵品展「備前刀 一用と美の系譜」』
●会期：前期 2月24日(日)まで/後期 2019年3月1日(金)～2019年5月26日(日)まで
『小磯良平展』 ●会期：2019年3月1日(金)～2019年5月26日(日)
- 【樂翠亭美術館】 『冬の樂翠亭美術館 一うつろいゆく景』 ●会期：2019年3月5日(火)まで
- 【金沢21世紀美術館】 『東アジア文化都市2018金沢 コア事業連帯企画 邱志杰(チウ・ジージェ) 書くことに生きる』
●会期：2019年3月3日(日)まで
『アベルト09 西村有 paragraph』 ●2019年3月24日(日)まで
『lab.3 DeathLAB:死を民主化せよ』 ●会期：2019年3月24日(日)まで
『コレクション展 アジアの風景/粟津潔、マクリヒロゲル』 ●2019年5月6日(休・月)まで

コレクション紹介

福島秀子 / Hideko Fukushima /

《五月の振動 III》 / キャンバス・アクリル絵具



© 福島和夫

青や紫の色彩の帯が画面中央を一直線に横切り、その上下には同様の色彩が重なり合いながら、浸透していくかのように広がっています。それは水平線のようにも見えますが、具体的なイメージが描かれているわけではありません。

この作品は、50年代から活躍した画家、福島秀子が1986年に発表した「五月の振動」シリーズの1点です。当初福島は、空き缶などの円形の型に絵具を

塗り、無数の円を型押しした絵画作品で注目を集めました。その作品は、美術動向「アンフォルメル（不定形）」の提唱者であるミシェル・タピエに見出され、初期の代表作《燦然たる飢餓》（当館蔵）は、アンフォルメルを日本に紹介した初めての展覧会「世界・今日美術展」に出品されています。60年代には、モノクロームの色彩で型押しを行った「弧」シリーズを展開しましたが、70年代以降、青い絵具を用いて、滲みを生かした作品の制作を始めました。

「五月の振動」は、70年代から始まる「青」シリーズの展開として考えることが出来ますが、画面中央に寒色の直線的な帯が描かれる点が特徴です。この帯は、否が応にも水平線、海を連想させずにはいられません。南天子画廊で発表された同シリーズ13点の中には、帯が縦に走る縦長の画面の作品も含まれています。この色彩の帯は、水平であることよりも、画面中央を直線的に走ることに重点が置かれているようです。初期の型押し作品と「五月の振動」では作風が異なりますが、そこに一貫した造形的な特徴を読み取ることは可能でしょうか。初期作品において、「筆で描く」のではなく「押す」ことを強調していたように、「五月の振動」においても、中央の色彩の帯はきわめて平明に塗られ、画面上下の色彩は滲みで表されており、筆跡や手わざから遠ざかろうとしている点は共通しています。また、詩人の大岡信が「五月の振動」シリーズによせた詩の中で、「福島秀子は多色の帯を培養する」と記しているように、イメージが画面の中で発生し、増殖していくかのような印象は、「五月の振動」のみならず初期作品にも指摘できるのではないのでしょうか。

（学芸員 遠藤 亮平）

富山県美術館（TAD）

〒930-0806 富山県富山市木場町3-20（富岩運河環水公園内）

TEL：076-431-2711 FAX：076-431-2712 <http://tad-toyama.jp/>

発行日：2019年2月4日